

ご当地ブランド 「円空さといも」 普及図る



市の特産品「円空さといも」の消費拡大や生産農家の増加を図ろうと「産地振興プロジェクト推進委員会」が発足しました。JAめぐみのや生産地の市、県、里芋生産組合、飲食業組合などがお互いに連携しPRに努めるとともに販路拡大、新しい加工品開

発などに取り組んでいきます。会議では、取り扱う店舗にPR看板を設置したり、料理コンテストを開催してはどうかなどの意見も出されました。円空さといもを使ったコロッケや餅などの試食もあり、推進委員会は知名度アップに力を入れていく考えです。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



牛乳はどのように作られるの

学校給食で飲んでいる牛乳を、より身近な飲み物として親しみを持ってもらい、牛や酪農、牛乳ができるまでについて学ぶ「わくわくミルク教室」が旭ヶ丘小学校で、昨年に続いて開催されました。児童らは農業大学生などから説明を受けた後、牛乳の飲み比べや飼料の見学、子牛とのふれあい体験をしました。体に触れたり、ミルクを与えたり、聴診器で心臓の音を確認したりと、楽しく食育について学習しました。

ウシモツゴ大きく育ててね

絶滅危惧種に指定されているウシモツゴを守ろうと、下有知小学校5年生児童81人や環境保全団体が、下有知の赤谷池にウシモツゴ約2,000匹を放流しました。その一部は、昨年の全国豊かな海づくり大会で、皇后さまから児童に託され、学校や市役所の観察池で繁殖させた2世で、放流は初めてとなりました。児童らはウシモツゴが増えるようにと願いを込めて放流し、自然を守る活動の大切さを学びました。





豪州の料理を習いました

外国の料理を市民らが体験し、国際交流への理解を深める恒例の「世界の料理交流会」が開かれ、オーストラリア料理作りに挑戦しました。講師に岐阜市国際課勤務のキリさんを招いて、オーストラリアの伝統的なパン「ダンパー」やサラダなど手軽な家庭料理の手ほどきを受けました。日本では知られていない味付け方法を知り、参加者は新しい発見に驚き、感心していました。

伝統の鼓笛守ります

安桜小学校で、鼓笛の引き継ぎ終了式が行われ、30年以上続く伝統の鼓笛が6年生から5年生に引き継がれました。引き継ぎは10月中旬から始まり、お師匠さん(6年生)がお弟子さん(5年生)に、週1~2回の総合学習の時間や昼休みを使って個別指導しました。鼓笛練習を児童同士の「師匠」「弟子」の関係で行うことを通して、相手を思いやり、教える喜び、教わる喜び、伝え合う喜びを感じる心を育みました。



モーニングサロンでおしゃべり

前山町自治会のモーニングサロンが人気を集めています。「町内にちょっとお茶を飲みながら話せる場所があるといいね」という住民の要望に応え、一昨年からボランティアグループが自治会などの協力を得て始めました。公民センターを会場に、年配者など毎回30人前後の方が集まって、コーヒーやサンドイッチを片手に楽しく会話を弾ませています。元気で健康な生活を送るための憩いの場となっています。

自分たちの学習を発信

小学校の総合的な学習時間の活動発表会「富岡まつり」が富岡小学校で開かれ、全校児童510人と保護者・地域関係者ら約200人が、学んだことを伝えたり体験したりして楽しくふれあいました。学年ごとに歴史や環境、米作りなどをテーマに学んだことを演劇、クイズ、ゲームなどを通して見学者に発表。段ボールや画用紙に絵を描いてブースを作るなど趣向をこらし、来場者を飽きさせない工夫を見せしていました。



こぼれ話



今年はいよいよ、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会ですね。全国障がい者スポーツ大会「ぎふ清流大会」は、市内でアーチェリーとフライングディスクの2種目が開催されますが、今回、関市に少し縁の深い「車いすバスケットボール」を紹介する広報番組を制作しました。県内で活動する唯一の車いすバスケットチームが、毎週土曜日に関特別支援学校(桐ヶ丘)で練習に励んでいます。各地から集まる選手自ら乗用車を運転し、2台の車いす(日常用、競技用)を介助者なしで手際よく積み降ろし

する姿はとても印象的です。競技は通常のバスケットとほぼ同じルールで、猛スピードで車いすが激突し、時には転倒するなどたいへんな迫力を感じます。チームには、強化選手の関市職員が所属しているほか、私の中学時代の同級生も健常者として挑戦しており、健常者が共に競技できるスポーツということも今回の取材で初めて知りました。

障がい者スポーツについてはもちろん、障がい者の状況や取り巻く環境、生き方を市民の皆さんとともに考え、また、お互いの交流を通して支援や理解を促進する機会の提供に努めていければと思っています。